

(電子メール施行)
農技 第 1 2 8 4 号
平成 29 年 8 月 10 日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第 1 号を下記のとおり発表します。
シロイチモジヨトウ成虫のフェロモントラップへの誘殺が平年より多く見られており、今後野菜・花き類で幼虫による被害が広く発生するおそれがあるので、適切な防除指導をお願いします。

平成 29 年度 病害虫発生予察防除情報 第 1 号 シロイチモジヨトウの防除対策について

- 1 対象作物 野菜・花き類
- 2 病害虫名 シロイチモジヨトウ
- 3 発生地域 県下全地域
- 4 発生状況

- (1) 加西市のフェロモントラップで 6 月以降誘殺数が急増している。誘殺数を平年と比較すると、6 月 2.5 倍、7 月 5.5 倍で、8 月に入ってから増加の傾向が続いている (図 1)。
- (2) 南あわじ市の 9 箇所を設置されたフェロモントラップでは、7 月 6 半旬の誘殺数がトラップあたり平均 165.3 頭と多数の成虫の発生が確認されており、本種が広い範囲で多発傾向にあることが伺われる。
- (3) 淡路島のネギほ場では幼虫の発生がみられはじめており、今後の野菜・花き類の植栽に伴いの被害の拡大が予想される。

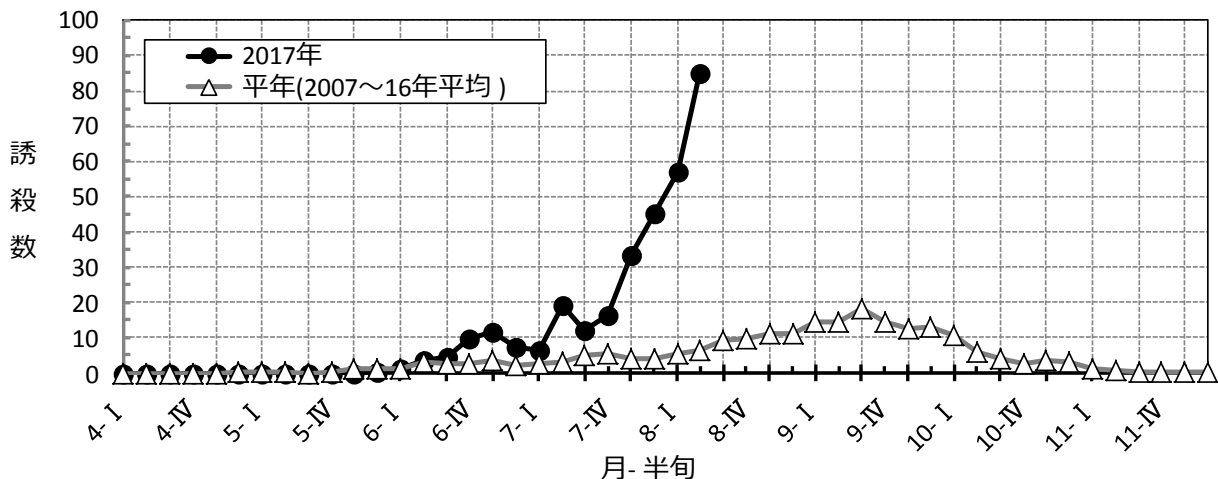


図 1 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数の推移 (加西市)

5 発生生態

- (1) シロイチモジヨトウ (*Spodoptera exigua*) は 1980 年代に西日本のネギを中心とした多くの作物で問題になったが、近年は発生が少ない状態が続いていた。ハスモンヨトウ (*Spodoptera litura*) と近縁であるが、体サイズは成、幼虫ともやや小さい。
- (2) 年間の発生回数は 5~6 回。雌成虫は 100 粒前後からなる鱗毛で覆われた卵塊を作物上に産卵する。孵化直後の幼虫は集団で食害するがその後分散する。幼虫の体色は通常淡緑色。老齢幼虫の体長は約 30mm で、土中で蛹化する。
- (3) 加害作物はネギをはじめキャベツ、ハクサイ、レタス、ホウレンソウなどの野菜類からカーネーション、キク、トルコキキョウなどの花き類と広範囲に及ぶ。

6 防除対策

- (1) 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたら速やかに捕殺する。
- (2) 中・老齢幼虫に対しては薬剤が効きにくくなるので、薬剤防除はできるだけ若齢幼虫期に行う。
- (3) ネギでは幼虫が葉の内側に潜り込むことが多いので、よく観察して初期防除に努める。
- (4) 成虫の産卵防止対策として、防虫ネット（目合 4mm 以下）、黄色灯、性フェロモン剤（交信攪乱剤）の利用が有効である。
- (5) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nour-insuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222
